

「私を変える祈り」

祈りのシリーズ①

ルカの福音書 11:1～4

教会の礼拝に出て気がつくことがあります。それは、お祈りをする事です。

礼拝で急にお祈りするように牧師先生に言われたある人は、洗礼を受けてまだ半年も経っていませんでした。先輩のクリスチャンが祈るのを思い出しながら、必死でお祈りしたそうです。「祈り」は、クリスチャンの特権です。信仰歴の長い短いに関係ありません。「祈り」は、信仰生活に欠かせない大切なものです。

「祈り」について、根本的な意味をみことばから見ていきましょう。

今日の聖書の学びの要点

- ・ 私たちもイエス様の十字架により「アバ、父よ」と祈れる事を信じ、神様に親しみと絶大なる信頼を持ち、どんな時もすぐに祈る者になろう。

I、イエス様の祈りの姿 — 祈りの姿勢 —

(ルカ 11:1～4)

1、この箇所は主の祈りのところです。聖書には2箇所書かれています。比べてみましょう。

① マタイ 6：9～13 (常に用いられている)

② ルカ 11：1～4・・・マタイの主の祈りと違う部分は何でしょうか？

2、弟子たちが「祈りを教えて下さい」と言った理由は何でしょうか。

① イエス様の姿：神の偉大さを現されたのを見て、驚嘆した。(ルカ 9: 43)

食する暇もなく、福音を宣べ伝えられ、病める人を癒され、悪霊を追い出された。

②イエス様の力によって、弟子たちも病人を癒し、悪霊を追い出し、神の国について宣べ伝える事が出来るようにされた。(ルカ 10:1~20)

③イエス様の力は祈りからくることに気がつき、その内容が知りたくなった。
(ルカ 11:1)

・自分自身の祈りの浅さと、イエス様の祈りの深さを感じた。

・自分も、イエス様の祈った後の輝き与えられたいと思った。

Ⅱ、父と子の関係

1、イエス様はまず「父よ」と呼びかけることを言われました。
「父よ」と呼びかけることの重要性について、学んでみましょう。

①親しみを表している。最も側近くにあり「アバ」＝「お父ちゃん」と甘える

②頼りにする。絶対に助けてくれる信頼を表している。

③すぐに、祈りがつながる。見よ。(詩篇 121:4)

2、イエス様の十字架と復活により、私たちにも父と子の関係が
与えられている。

①十字架により、罪の赦しが与えられ、神の前に義と認められている。(ローマ 5:9)

②復活の主の代わりに、ご聖霊(アバ父よと呼ぶ御子の霊) が私たちの心の内に来て
くださる。(ローマ 8:15)